

---

# ICPC国内予選 2018

---

17 - baton

---

---

# はじめに

---

- 国内予選お疲れ様でした
  - A-Eの解説をしますが、BとE以外は実装してないです  
(たぶん大丈夫)
  - どうでもいいけど、先週末のコンテスト多くない？  
ukucon, SoundHound, TCOR3A, HFC, JOI Open ...
-

# まとめ

	ACチーム数	割合	解法
A	387/400	96.8%	ループ
B	140/400	35%	2次元配列操作
C	186/400	46.5%	算数
D	70/400	17.5%	枝刈り全探索
E	20/400	5%	実験
F	7/400	1.8%	幾何(軽)
G	3/400	0.8%	—
H	1/400	0.3%	木DP ?



---

A問題

# 所得格差



---

# A - 問題概要

---

- 長さNの数列 $\{A_i\}$ が与えられる
  - 平均値**以下**の要素数を求めよ
-

---

# A - 解法

---

- 総和を求めて、Nで割れば平均値が求まるので、  
これと全てのA\_iを比較して条件を満たす要素数を数える
  - “以下”なので、平均値は切り捨てで良い(整数演算でOK)
  - 今回は必要ないが、誤差を避けるためには、  
$$A_i \cdot N \leq \sum_{j=1}^N A_j$$
 のように、整数だけで比較すると良い
-



---

B問題

# 折り紙



---

# B - 問題概要

---

- $N \times M$ の長方形の紙で折り紙をする
  - 「上から $y$  cm」 or 「左から $x$  cm」 の線で谷折りを繰り返す  
※問題文は左下が(0,0)だけど、左上としても一緒
  - 全ての指示に従って折り終わったあとに、左上から  
 $(x+1/2, y+1/2)$ の位置に重なっている紙の枚数を求める
-



## B - 解法

[illegible]

## B - 解法

[illegible]

## B - 解法

[illegible]



## B - 解法

[illegible]

# B - 解法

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	4	4	4	2	2	2	0	0	0	0
0	0	0	4	4	4	2	2	2	0	0	0	0
0	0	0	4	4	4	2	2	2	0	0	0	0
0	0	0	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0
0	0	0	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0

# B - 解法

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	4	4	4	2	2	2	0	0	0	0	0
0	0	0	4	4	4	2	2	2	0	0	0	0	0
0	0	0	4	4	4	2	2	2	0	0	0	0	0
0	0	0	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0
0	0	0	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0



# B - 解法

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	4	6	4	4	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	4	6	4	4	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	4	6	4	4	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	2	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	2	0	0	0

---

# B - 必要なこと

---

- 各作業前(折る/重なりを求める)に左上の位置を求める  
→  $\text{sum}[i][j] > 0$ を満たす辞書順最小の $(i,j)$
  - 折る位置を対称として配列の値を移動させる  
→  $\text{sum}[i][c+j] += \text{sum}[i][c-j-1]; \text{sum}[i][c-j-1] = 0;$
-

---

## B - 実装の注意

---

- 紙の左上を配列の[0][0]に毎回合わせるのは面倒  
そのため、左上の位置を毎回求めるほうが楽
  - ただ、はみ出るような折り方を繰り返すと多くの配列が必要  
→600 x 600 くらいの配列を確保すれば十分
  - 最大でも32x32なので1024よりも大きい結果が出力されたら  
おかしい(提出前に確認してみると良い)
-

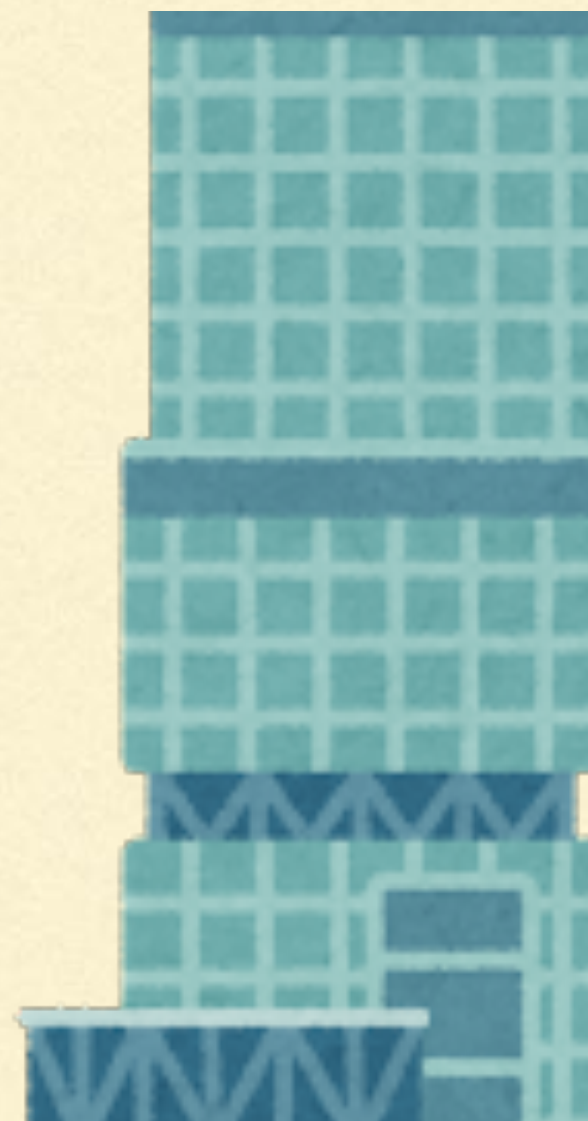


---

C問題

# 超高層ビル 「みなとハルカス」

あべのハルカス→



---

# C - 問題概要

---

- 連続する整数の和が  $X$  になるような 区間を考える  
例)  $1+2+3+4 = 10$ 、  $6+7+8 = 21$ 、  $3 = 3 \dots$
  - そのような区間の中で最長の長さの区間を求めよ
-

---

# C - 解法

---

- 一つの式で答えを出すのは難しそう
  - 区間の最小値を固定すると最大値も求まるけど候補が $10^9$
  - なら、長さを固定してみると良さそう
-



---

# C - 解法

---

- 長さを固定すると...

候補は $O(\sqrt{N})$  (なぜなら、 $1+2+\dots+A = A*(A+1)/2$ )

- さらに、長さを固定すると簡単に区間を求められることが分かる

---

# C - 解法

---

- 長さLが奇数の時 -> 中央値 \* 長さ = 総和  
そのため、 $X \% L == 0$  のとき、解が存在
  - 長さLが偶数の時 -> 中央値 \* 2 \* L/2 = 総和  
そのため、 $X \% (L/2) == 0$  のとき、解が存在
  - ただし、両方とも最小値が1以上であることをチェック
-

---

# C - 解法

---

- 長さごとにチェックができるようになったので、  
解が存在する最大のLが答え
  - Lが決まれば区間内の最小値も一意に決まるので、  
それも一緒に出力する
-



---

D問題

# 全チームによる プレーオフ



---

# D - 問題概要

---

- 総当たりリーグ戦で全チームを同順位にしたい
  - すでに行われた試合の結果が与えられるので、全チームが同順位になるための、残りの試合結果の組み合わせ数を求める
  - ただし、各試合では引き分けはなく、  
リーグ戦の順位は各チームの勝ち数のみで決まる
-

---

# D - 解法

---

- とりあえず入出力例をみてみよう
- 1試合しか確定していないので、明らかにこれは最大  
→全探索できそう

INPUT

9

1

1 2

OUTPUT

1615040

---



---

# D - 解法

---

- 本当に答えの最大値が1615040だと、全探索できるのか？
  - 試合の組み合わせは、最大で $2^{35}$ なので枝刈りは必要
  - 再帰関数で探索していくときに、探索先に解が1つ以上必ず存在するように潜っていくと、 $O(\text{答え} * \text{深さの最大})$ になる  
→今回は必ず解が存在する条件チェックは難しそう？
-

---

# D - 解法

---

- それでも、各チームの勝ち数が $(N-1)/2$ になるようにチェックしていけば十分高速
  - なぜ？
    - >空のリーグ表で考えて見よう
-

# D - 解法

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
A									
B									
C									
D									
E									
F									
G									
H									
I									

半分は勝たないといけないので、組み合わせは、 ${}_8C_4 = 70$



# D - 解法

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
A									
B									
C									
D									
E									
F									
G									
H									
I									

1試合の結果は決まっているので、最大でも  ${}_7C_3 = 35$

# D - 解法

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
A									
B									
C									
D									
E									
F									
G									
H									
I									

2試合の結果は決まっているので、最大でも  ${}_6C_3 = 20$

---

# D - 解法

---

- つまり、最後の行までこれを繰り返すと、

$$\begin{aligned} & {}_8C_4 \cdot {}_7C_3 \cdot {}_6C_3 \cdot {}_5C_2 \cdot {}_4C_2 \cdot {}_3C_1 \cdot {}_2C_1 \cdot {}_1C_1 \\ &= 70 \cdot 35 \cdot 20 \cdot 10 \cdot 6 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1 = 17640000 \end{aligned}$$

- 間に合う！！
-



---

# D - 実装

---

- 常に、全てのチームの勝ち数が、半分以下であるように順番に勝ち負けを決めていけば十分
  - $\text{dfs}(\text{注目している試合, 各チームの勝ち数})$   
->  $\text{dfs}(\text{勝ちの場合}) + \text{dfs}(\text{負けの場合})$
  - 各チームの勝数は変化したところ(つまり2チーム)だけ注目すれば十分(毎回全チェックしても国内予選では問題無い)
-

---

E問題

# 浮動小数点数



---

# E - 問題概要

---

- 仮数部52bit 指数部12bitの浮動小数点数が与えられる
- この浮動小数点数を桁落ち誤差を考えながら、  
0に $N+1$ 回足したときの値を求めよ



---

# E - 問題整理

---

- m を残る 52 ビットが表す二進小数に 1 を加えた  
 $(1.b_{52}...b_1)_2$  とする
  - →値を扱いやすいように、常に53bit目に1を入れて扱う
-

---

# E - 問題整理

---

- 足し算はどうやって行われているのか？

$$\begin{array}{rcl} 100000000000...000000000000 & & (e = 0) \\ + \\ 100000000000...000000000000 & & (e = 0) \\ || \\ 100000000000...000000000000 & & (e = 0) \\ || \\ 100000000000...000000000000 & & (e = 1) \end{array}$$

---

---

# E - 問題整理

---

- 足し算はどうやって行われているのか？

10000000000...0000000000 (e = 2)

+

10000000000...00000000111 (e = 0)

||

10000000000...0000000000 (e = 2)

+

100000000...00000000001 (e = 2)

||

10100000000...00000000001 (e = 2)

---



---

# E - 解法

---

```
1. s := a
2. for n times {
3.     s := s + a
4. }
```

- sの指数部の値に合わせてaをビットシフトして足しているのと同じ
  - 繰り上げが起こるまでは、同じ値を足し続けるので、繰り上げが起こるまで一気に足しても問題無さそう
  - 53回右シフトすると0になるので、足す回数も最大で53回
-

---

# E - 実装

---

- $a :=$  入力の53bit目を1にした値(long longに収まる)
  - 最初に、 $s = a$ 、 $e = 0$
  - 繰り上がりするまでに足せる回数は、  
 $(2^{53} - s - 1) / a + 1$  で求まる
  - 繰り上がったら、 $e += 1$ 、 $a /= 2$
-

---

# 宣伝

---

- 2018/7/21 01:00 - 7/24 01:00 に ICFPCが行われます
  - マラソン形式です
    - 昨年 -> 折り紙、 去年 -> ゲーム(AI作成)
  - チームで参加できるので参加しませんか？(募集中)
  - <https://icfpcontest2018.github.io>
-